

名誉園長の部屋



名誉園長 松谷 茂

京都新聞「ソフィアがやってきた」企画で

小学生の皆さんに植物に関する授業を行いました。

これからの催し



名誉園長さんときまぐれ散歩

・6月26日(日)午後1時から
植物園会館前集合 先着30名

*活動予定はここで要チェック。お楽しみに！

「ソフィアがやってきた!」顛末記その2

前回からの間隔が長くなりました。

「ペットボトルなんでやねん作戦」の謎解きは意外と簡単です。アカマツかクロマツの球果(まつぼっくり)ですが、鱗片(まつぼっくりの外側にあるウロコ状の器官)が開いている小さめのものを拾います(写真-1)。この時点で、ペットボトルの口にはとてもとても入るとは思えません。(写真-2)



(写真-1)



(写真-2)

ここから簡単な仕掛けをはじめます。

容器に水を張り、そこに球果を入れ(写真-3)、待つこと約30分。鱗片は収縮し球果はキュッと身を引締めたように縮こまります(写真-4)。



(写真-3)



(写真-4)

ウワッ、凄っ!と驚くだけでは学習にはなりません。

鱗片の付け根にある種子(タネ)が十分に熟した頃、乾燥状態を見計らって鱗片は開き、風とともに種子が飛び出し、風に乗って親の個体がある場所よりより遠くへ飛んで地面に落ちます。条件が整えば、そこで発芽し成長します。

種(しゅ)としての生存を続けるための戦略です。

縮こまった球果をペットボトルに入れるのは、力づく。口よりやや大きくても力で押し込んでください(写真-5,6)。

あとはペットボトル内の乾燥を待つのみ。

乾燥を早めるためにキリを突き刺し穴を開けますが、ストレス解消にはもってこいのこの方法、一歩間違えると大けがにつながり危険ですので、やらなくても十分大丈夫です。くれぐれも要注意。

アカマツの種子はこんなに小さく(写真-7)、これが何十年も経つと信じられないくらい大きな木に成長します。プクッと膨らんでいる色の濃い粒状のものが種子で、その周りの扇状のものを翼(よく)といい、これで風に乗り遠くへ飛んでいくことができます。

「ペットボトルなんでやねん作戦」、無事完了しました。(写真-8)



(写真-5,6)



(写真-7)



(写真-8)